R&Dフェーズ｜開発　**実用化時期**｜FY27-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#A13

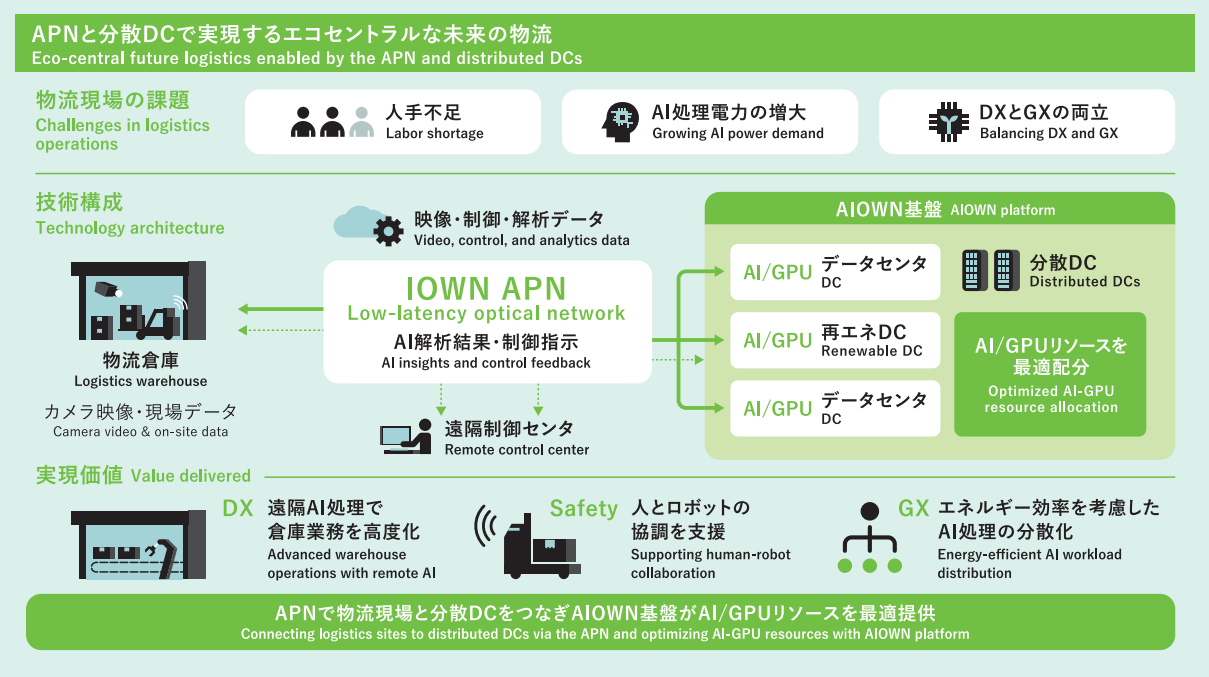
#DX・AX（デジタル変革）#業務効率化#カーボンニュートラル

AIOWN × 物流

遠隔・分散処理が実現するエコセントラルな未来の物流を示します

技術課題・ゴール

物流現場では人手不足への対応やDX・GXの両立に加え、AI活用拡大に伴う計算資源・電力需要の増大が課題となっています。本展示ではAIOWNにより、複数倉庫で発生する映像や制御データを広域に分散した計算資源で最適処理し、安全性向上と業務効率化を実現するとともに、エネルギー効率に優れた物流DXの姿を示します。



技術ポイント

要素技術

・APNとAIOWN基盤による複数倉庫情報の広域分散処理
・APNによるリアルタイム遠隔操作

市中技術差異点

・APNとAIOWN基盤の組み合わせにより、複数倉庫のデータを分散DCで高効率・低消費電力で処理
・長距離リアルタイム遠隔制御とAI動態解析を統合した物流DX技術

適用ビジネス/ユースケース

交通・運輸

複数倉庫の映像をAIOWN基盤上で広域分散処理し、再エネ活用データセンタのGPU資源を最適利用します。現場の設備投資・電力消費を抑えながら、物流機器操作やその動態の可視化による安全性向上と物流DX・GXを実現します。

出展組織
NTT株式会社 テクノロジーイノベーションセンタ
NTTドコモビジネス株式会社

社外連携先
京セラコミュニケーションシステム株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社

関連情報URL
https://group.ntt/jp/newsrelease/2026/03/23/260323a.html